



夏休みが始まり、やがて旧盆の季節を迎えます。沖縄本島中部は旧盆エイサーが盛んな地域の一つですから、夜な夜な聞こえるエイサー練習の音が去年から聞こえない事が寂しいです。今年も難しそうですね。そんな訳でコロナウイルス終息の祈りを更に強く願うばかりです。

柔らかい

良啓

先日、防火講習講座を受講しました。久し振りの受講生でしたので変に緊張していましたが、講師の話し方、間の取り方など、受講しながらも自分が講師ならどの様に話すのか、言葉の選び方を考える良い気分がありました。

さて、お大師様の著書に次の様な言葉があります。

「**医王の目には途（みち）に触れてみな葉なり、解宝（げほう）の人は鉱石（こうしゃく）を宝と見る。**（般若心経秘鍵）」

「道端の草を、凡人はただの雑草と思うが、医者から見たら薬草である。道端の石を、凡人はただの石ころと思うが、宝石の目利きから見たら高価な石である。」と言う解釈です。

大切なことは、心の持ち方です。常に観察者の視点を持ち、柔らかさを保つ様に心掛けています。具体的には、自分自身の考え、教義で物事を見ますが、同時に反対に考えたらどうだろう？あの人ならどう解釈するだろう？と意識しています。

ここでお大師様の話です。お大師様は書家としても有名ですが、「飛白体」と言う非常に躍動感のある書体を残しています。これは、穂先を竹などの堅くばらける素材に変えて、書いています。様々な書体に精通し、遊び心があるお大師様ならではの発想ですね。



眞言七祖像贊
(東寺蔵)

寺務員 田村

四月中旬よりお世話になっております田村と申します。このご縁は三月末に自身のお墓について相談に伺いましたところ、四月より新規にお墓等が開園され見学会が開催されるとの事で早速、申し込みさせて頂きました。

帰宅し、ご住職の許可もありませんまま永代供養にいる自分を想像し、その日のうちに息子や友に亡き後にお参りに来るようにと連絡を。その後案内を拜見していますと、アルバイトの募集のお知らせが。これも何かの導きとさっそくお電話にて連絡し、面接の日をちを決めて頂きました。勝手にアピールし、お試しでお願いできる事となりました。住職ご夫妻、お若いスタッフ一同に迷惑かけないようにと必死な毎日です。

お陰様で早起きな毎日になり、お大師様、そして、美しい朝日に手を合わせ先祖様にこうして生かされ、お勤めさせて頂けていることに感謝し日々を送らせて頂いております。

寺務員 比澤



初めまして。六月より勤めさせて頂いています、比澤と申します。私の出身地大阪では、お盆やお彼岸には「おはぎ」をお供えます。そんな大好きな「おはぎ」について今日はご紹介したいと思います。

小豆やお米には魔除けや五穀豊穡の願いが込められています。そして季節ごとに呼び名や作り方も変わります。春のお彼岸には牡丹の花に例え「ぼたもち」と呼び、こし餡でコロッと丸く握ります。また秋彼岸には萩の花に例えて「おはぎ」と呼び、つぶ餡で若干俵型に握ります。我が家では年中「おはぎ」と呼びますが、つぶ餡で丸々と仕上げます。それぞれの家庭で伝える自由な愛ですね。

時世柄もあり、遠方のご実家やお墓参りには気軽に外向く事が出来ない事と存じますが、日々の生活の中で出来る範囲で先祖様に気持ちを送ったり、必要に応じて当寺本尊もご参拝下さいませ。

